



ZOOM UP

熊本県看護学生 県内定着促進事業

くまもとで働く！

2月26日、熊本大学医学部保健学科主催のもと「熊本県看護学生県内定着促進事業」が開催された。本事業は、熊本大学医学部看護学科の学生をはじめ、熊本県内の大学関係者や国民健康保険診療施設の関係者などが参加し、【第1部 特別講演】【第2部 さまざまな地域の病院紹介】【第3部 意見交換】の3部構成で行われた。

はじめに、主催者を代表して熊本大学医学部保健学科教授の前田ひとみ氏が参加者に対し、感謝の言葉を述べるとともに、「現在、医師及び看護師の人材不足が問題視されている中、熊本大学医学部では、いかに地域で活躍できる場を学生に提供できるか日々検討しているところです。今後も関係者の皆様のご協力をいただきながら精進してまいります。」と挨拶された。

第1部 特別講演

大分県立看護科学大学
看護研究交流センター長
影山隆之氏



大分県立看護科学大学看護研究交流センター長の影山隆之氏を講師に迎え「予防的家庭訪問実習が看護学生の県内定着にもたらす影響」と題して講演が行われた。

看護科学大学で行う実習の一つである「看護学生による高齢者への予防的家庭訪問実習」の説明があった。この実習は「地域と密着した実習」という特徴を持っており、看護学生による高齢者への実習は、1年生から4年生までの4名でグループを構成し、70歳以上の協力者（家庭訪問実習に協力していただく地域住民）の自宅を年間7～9回訪問するというものである。

実習内容は協力者とコミュニケーションをとり、その生活をアセスメントする他、健康な在宅生活を維持するための生活方法を、協力者と共に考え実践することなどがある。

この実習を始めた背景には、大分県は全国に先駆けて人口の高齢化が進んでいることが挙げられる。こうした環境は見方を変えれば、「日本全体の健康課題の縮図が学生の身近に典型的に存在する」ことを示している。そこで、「病院だけでなくあらゆる場で必要」とされる看護を学ぶために、「暮らし」というフィールドに立って地域包括ケアを考えて欲しいという主旨で、予防的家庭訪問実習を看護科学大学で取り入れていると話された。

予防的家庭訪問実習の目標

- 地域に住む高齢者の生活・人生を長期的な視点で捉える。
- 地域に住む高齢者への機能低下予防対策について考える。
- 高齢者の在宅生活を支えるためのシステムや地域の在り方を考える。
- 世代や学年を超えた人とのコミュニケーションをとる。

実習に参加した学生からは「協力者の生活背景を知り、生活の楽しみを尊重する関わりが大切」、「協力者にとって安らぎの場や、安らぐ人の存在が大切」、「座学や病院実習だけでは得られないものを得ることができた」などの声が聞かれた。

これらの他にも、看護学生が実習を通して感じた「体力低下が気になった協力者の情報」や「認知機能に不安がある協力者の情報」については、個人情報の取扱いに注意しながら、市町村の保健師や地域包括支援センターと情報共有して対応を図っている。

また、実習の成果は学生だけでなく協力者にもあった。

協力者からは、「学生の訪問を楽しみにしている」、「学生が来てくれることで生活に張りが出る」などの声が聞かれた。

このように継続的に地域の高齢者と関わる実習を通じて、学生が協力者を「生活者」として捉える視点を学び、その背後にある「地域」を意識できる力を身に付けてほしい。今、地域包括ケアの時代にあり、この力は、できるだけ自分らしい生活を地域で送ろうとする高齢者を支援していく看護職に求められる力と言える。最後に『「地域」を意識できる力を今後も学生に学んで欲しい』と話し、講演は終了した。

第2部 さまざまな地域の病院紹介

熊本県国民健康保険診療施設協議会の会員施設から病院紹介が行われた。

それぞれの地域の特色を切り口にした病院紹介に、参加者はとても熱心に聞き入っていた。「看護師としてぜひ就職してほしい」と病院独自の強みを紹介する説明者や、町の魅力を紹介し、興味を持ってもらえるよう話しかけるような口調でPRする説明者など、説明方法にも特徴があり、終始、和やかな雰囲気第2部が終了した。



国保水俣市立総合医療センター
副看護部長
白坂亮子氏

病院紹介説明者

- | | | |
|-----------------------|-------|--------|
| ○ 小国町外一ヶ町公立病院組合小国公立病院 | 副院長 | 片岡恵一郎氏 |
| ○ 山都町包括医療センターそよう病院 | 看護総師長 | 黒木あけみ氏 |
| ○ 国保水俣市立総合医療センター | 副看護部長 | 白坂亮子氏 |
| ○ 球磨郡公立多良木病院企業団 | 企業長 | 大島茂樹氏 |
| ○ 上天草市立上天草総合病院 | 看護部長 | 森こずえ氏 |
| ○ 国民健康保険天草市立河浦病院 | 病院長 | 中川和浩氏 |
| ○ 阿蘇医療センター | 看護部長 | 山部かおる氏 |

第3部 意見交換

意見交換では、「影山隆之氏による講演を聴き感じたこと」や「紹介があった病院についての質問」など、立場の違いを超えた活発な意見交換が行われ、意見交換で出た意見や感想は次のとおり報告された。



意見・感想

- 急性期医療に携わりたいという思いから就職先を検討しているが、地域医療の実態を知る良い機会となり、医療従事者として地域医療に関わることも視野にいれることができた。
- 検査技師として、地域医療に貢献するにはどうすればよいか考え、そして、そのための情報収集ができる良い機会となった。
- 今後、自助など地域の力が必要になってくる中で、学生の頃から地域との関わりを深めることによって、地域医療に携わる医療関係者も増えるのではないかと感じた。そのようなシステムづくりを、看護科学大学の実習を参考に熊本でも検討してほしい。
- 地域医療に興味はあるものの、さまざまなことができなければいけないのではないかという思い込みがあり、一步踏み出す勇気がない。今回のように地域医療について学べる機会がたくさんほしい。
- 医師の地域研修のように、看護師も就職後に地域研修を行うシステムを導入していいのではないかと感じた。
- 地域医療について知ることができ、地域に寄り添う病院の特徴について捉えることができた。

意見交換のまとめとして、影山隆之氏から、「病院に勤めるにあたり“組織への適応”が大切。病院に勤めるということは、その地域の生活者になるということであり、自分の将来を見据えながら、日々生活してほしい。」と講評があった。

最後に主催者が、参加並びに本事業の協力に対して感謝の言葉を述べるとともに、「学生にとって地域医療を知る良い機会となり、地域医療に興味を抱く学生が増えるよう、私たち職員一同、今後も教育に励みます。」と締めくくられ、平成30年度熊本県看護学生県内定着促進事業は終了した。